

リサーチグループ登録届出書

平成 24 年 2 月 7 日

1. リサーチグループの概要

リサーチグループの名称	食料・バイオマス生産のための環境工学フォーラム		
リサーチグループの名称(英語)	Environmnetal Engiennring Forum for Production of Food & Biomass		
分野(1. 人社系、2. 理工系、3. 生物系、4. 複合系)	3		
設置開始時期	2012 年	4 月	
設置終了時期	2017 年	3 月	

2. リサーチグループ代表者

所属・職名	生命環境系・准教授		
氏名	野口 良造		
氏名(英語)	NOGUCHI Ryoza		

3. 連絡先

所属・職名	生命環境系・准教授		
氏名	野口 良造		
電話	029-853-4697		
FAX	029-853-4697		
E-mail	noguchi.ryozo.gm@u.tsukuba.ac.jp		

4. 担当部局(当該リサーチグループの運営等を管理する部局名)

生命環境系

5. 構成員一覧について

共通様式②

名前	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
足立泰久	筑波大学生命環境系	教授	水質水理学	農学博士	代表者
瀧川具弘	筑波大学生命環境系	教授	生物生産知能システム工学	農学博士	
内海真生	筑波大学生命環境系	准教授	水界生物地球化学	博士(理学)	
北村 豊	筑波大学生命環境系	准教授	食料プロセス工学	博士(農学)	
小林幹佳	筑波大学生命環境系	准教授	環境水理学	博士(農学)	
佐久間泰一	筑波大学生命環境系	准教授	農村計画学	農学博士	
トファエル・アハメド	筑波大学生命環境系	准教授	生物生産センシング工学	博士(農学)	
野口良造	筑波大学生命環境系	准教授	地域エネルギー工学	博士(農学)	
堀田紀文	筑波大学生命環境系	准教授	生体構造工学	博士(農学)	
源川拓磨	筑波大学生命環境系	助教	ポストハーベスト工学	博士(農学)	
谷口智之	筑波大学生命環境系	助教	水資源工学	博士(農学)	
井上吉雄	筑波大学生命環境系	教授(連携大学院)	生態系計測	農学博士	

6. 構成員数について

構成員総数	12名
(内訳) 本学常勤教員	11名
(内訳) 本学ポストドク数	名
(内訳) 他機関研究者	1名

7. 科研費細目番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		6501	6502	6503
8. キーワード(5つまで)	土壌物理	土壌保全・防災	物質循環	食料・ポストハーベスト工	生物生産機械
9. キーワード(英語)	土壌物理	Soil conservation and disaster prevention	material circulation	Food&Post-harvest engineering	Bio-production machinery
10. 研究グループHP	URLを記載してください。 http://www.agbi.tsukuba.ac.jp/~aeng/kankyokougaku_forum.html				
11. 研究グループ概要(100字程度)					
<p>本リサーチグループは、国際地縁技術開発科学専攻エコリージョン領域の教員が中心となって組織され、日本や世界が直面する生物系のなかでの農学・農業工学分野における諸課題を、学術的視点、工学的視点、技術者倫理にもとづく立場から、研究を推進する。</p>					
12. 研究グループ概要(英語)					
<p>This research group "Environmetal Engienrning Forum for Production of Food, Biomass" is to promote agricultural engineering research in the biological system which Japan and the world face and to carry out by the faculty of Eco-region field in Division of Appropriate Technology and Sciences for Sustainable Development from the viewpoint of academic, engineering, and engineering ethics.</p>					
13. 設置の目的及び必要性					
<p>2011年3月に発生した東日本大震災は、社会のあらゆる局面に多大な影響をもたらしている。とりわけ、農林水産業や環境とエネルギーに深いかかわりを持つ生物生産環境基盤の技術的課題には、学術的視点、工学的視点、技術者倫理にもとづく立場から、従来にない、高い使命感と倫理観にもとづく、研究姿勢、情報発信が強く求められている。既存する国内外の諸学会においても、様々な活動が始まっているが、従来の枠組みの中での、単なる延長線上での研究では、同様の事故や、災害、普及の遅れが顕著になることが予想され、これからの新しい組織とアイデアによる、環境工学の技術の確立は不可欠であると考えられる。特に食料・バイオマス生産の環境基盤、機械技術を担う本リサーチグループは、平成23年度生命環境科学研究科長裁量経費「震災後に長期的視野で取り組むべき生物生産環境基盤研究の諸課題の調査と環境工学フォーラム形成(代表:足立泰久)」がベースとなっており、計画申請書中長期的展望に立って、問題を絞りだし総合的かつ抜本的に取り組んでいく体制作りのために、既に諸学会、諸団体で開始されている様々な活動の情報を学術の体系的立場から調査し、学内の研究教育体制へ転換をはかるためのフォーラムを形成し、研究テーマの立案と推進を行うものである。</p>					
14. 研究計画					
<p>震災を契機とした、今後の新たな生物生産の環境基盤を確立するために、研究と、研究に付随する基礎教育、倫理教育の進展を柱に据えた活動を行う。研究では、当初の2年間で土壌水環境分野、農業工学分野、森林環境学分野、灌漑排水学分野、農業農村計画学分野、農村エネルギー分野、ポストハーベスト分野、環境工学分野の基礎教育分野などに対して調査を行い、学術的な課題を抽出するとともに、新たな研究組織の枠組みとった政策的な提言を行うと同時に、研究テーマの調査、選抜を行う。後半の3年間は、農業・農村工学(基盤)、生物生産機械(生産)、食料・バイオマス生産(加工)の三つを中心としたグループからの課題設定を行うものとし、外部資金の獲得等を行う。</p>					
15. 研究・教育に期待される効果(箇条書き)					
<ul style="list-style-type: none"> ・本グループの活動は、様々な分野の研究者が集結している大学の活動として大きな利点があり、集約される情報とそれに基づく研究・教育効果に大きな付加価値が生まれる。 ・活動を当該分野(国際地縁技術開発科学専攻エコリージョン領域)が担うことによって、震災後の水、土、生産基盤の長期的研究の方向性を明示することができる。 ・本プロジェクトの活動は、震災後の動きに関する実態調査と既に蓄積されている学術的財産の価値を顕在化させるための討議、将来の予算獲得活動に大別されるが、この過程を経ることによって、既に開始されている様々な研究のみならず、学類、大学院における教育プログラムの改善に役立てることができる。 					